

八代市の地域振興への戦略提言
～新庁舎建設を起点に～

平成30年2月
八代商工会議所

2018年、八代市は、これまで誰も予想しなかった未来へのゲートウェイに立っている。

クルーズ船 200 隻が誘^{いざな}う 100 万人のインバウンド、世界に人気のくまモンスクウェアの設置、海でつながる世界遺産の数々……。目前に広がる大きなチャンスは、郷土の未来を開く扉である。

この扉は、2020年に整う。

一方、足元を振り返ると、危機感を強めざるを得ない。

3年後に迫る態勢として、ハードとソフト両面の準備が動き出している状況とは言い難いからである。

我々は、整いつつある競争優位性を確実に現実のものにし、次の世代に引き継ぐ使命があると考えます。

そのためには、市民・行政・経済界が一体となり、「観光おもてなし都市八代」及び「コンパクトシティ八代」を八代が目指す姿として、第一歩を踏み出さなければならない。

その第一歩を踏み出すホィスルが、新庁舎建設である。

新庁舎を単なる行政サービスの執務所とするのではなく、総合的
地域戦略の要^{かなめ}と位置付けることが重要だと考える。

チーム全体が一つの目標に向かう‘オールフォーワン’の旗振り役を行政が担い、経済界は自らの責務として経済発展の主体となり、地域社会に貢献したい。

以上の問題意識から、下記の二つのテーマを提言する。

<戦略提言>

1. 中心市街地の将来ビジョン策定
2. インバウンドの受け皿の充実

1. 中心市街地の将来ビジョン策定

中心市街地における近年の人口増加の動きを持続させると共に、確実に活かし切る都市環境の整備が急務だと考える。

そのために、次の①と②を織り込んだ将来ビジョンの策定を提言する。

①新庁舎に、アーケード街への人の流れを促す機能を織り込む。

②中心市街地に、「商業」「医療」「観光」「行政」等のゾーニングの将来像を設計する。

<事例として>

- 新庁舎に図書館機能を持たせるなど、市民のハブ（車軸）機能を設計。
- 新庁舎と中心市街地の回遊性を高めるランドデザインを描く。

2. インバウンドの受け皿の充実

近年のインバウンドの増加傾向に加え、クルーズ船寄港の倍増等の動きを活かし切ることが重要だと考える。

そのために、次の①と②を内容とする受け皿の充実を提言する。

①クルーズ船寄港増加に向けた環境整備。

②インバウンド向けの魅力的な観光ルートの策定。

<事例として>

- 中心部に大型バス 30 台程度の駐車場を整備するなど、八代市が九州のインバウンドのハブ（車軸）機能の一翼を担う。
- 中心市街地周辺の受入体制及び多言語化等を、ハードとソフトの両面から整備する。

平成30年2月8日

八代商工会議所 会頭 松木 喜一